

# 考古かながわ 第5号

1993年8月17日

## 回想『夏島貝塚発掘の話』(1)

横須賀考古学会

川上久夫

縄文早期の貝塚が在った夏島（横須賀市夏島町）は、もと日本海軍の第一軍港であった横須賀の追浜航空隊の一部にあり、要塞工事がなされたときに発見されたようである。この調査結果については、明治大学文学部研究報告第二冊（昭和32年）に詳細に論述されている。

この飛行場は、敗戦と共に進駐してきた米国海軍が占領し、厳重な管理のもとに置かれていた。私の記憶の中では日付のことがよく判らなくなっているので、報告書に記載されている日付を追って、当時を思い出すままに書き記しておく。

「昭和25年3月20日予備調査に入る」とある。当日、国電横須賀駅には後藤守一・杉原莊介両先生に、芹沢（長介）さんと占領軍総司令部（GHQ）のダウズ中尉がおられた。本調査は昭和25年3月23日より4月4日まで、横須賀の山城屋旅館に宿泊して、毎日米国海軍の専用バスで基地内に送迎され、守備兵のいる衛門を通過していた。そのバスの運転手は基地要員の日本人で私の同級生鈴木君であった。甲府の連隊へ入営した同年兵でもある。彼は8中隊のラッパ兵であった。

発掘中に米国海軍警備隊の捕虜になる事件が起きたのは、何日であったか判然としないのだが、前日の午後、二人の米人が発掘現場に登ってきた。一人は少し見てすぐ帰っていったが、残った太り気味の平服の男が話し掛けてきた。

「ここはもと海だったのか」と聞くので、「昔の日本人が生活していた所だ」。「それは日本兵か」といったような内容を覚えている。南の島で日本兵と戦闘したことでも思い出したのだろう。何しろ覚つかない英語ではどうしようもない。

その日はそれで済んだのだが、次の日の午後3時頃、およそ20人程の水兵が数名の下士官に引率され、戦闘服姿で銃に着剣して、発掘していた我々を取り囲み、何か大声で命令しながら、「両手を頭にのせて集まれ」というような仕事で銃剣を突き付けてきた。えらい剣幕である。とにかく発掘を中止して命令される姿で、ぞろぞろと歩きはじめた。その日はよく晴れた日で、空が青く広がり、白い雲が流れていた。海に船が浮かんでいるのがよく見えた。毎朝登る石段の上の少し広い場所に集められて、そこに「座れ」と云う。（次号につづく）

# 1993年度神奈川県考古学会総会報告

1993年度神奈川県考古学会総会は、去る5月22日、横浜市開港記念会館講堂において、以下の次第によって開催されました。

- 開会
- 会長挨拶
- 議事

○議長選出

議事1. 1992年度事業報告の承認

議事2. 1992年度収支決算報告の承認

議事3. 役員の変更

議事4. 1993年度事業計画(案)の議決

議事5. 1993年度予算(案)の議決

- 閉会

日野一郎会長の挨拶の後、会則第10条3により議長に日野一郎氏を選出して議事に入った。小川裕久委員により議事の報告、提案説明が行われ、1992年度の事業報告・収支決算報告の承認と、1993年度の事業計画(案)・予算(案)が議決された。役員選出では、旧役員21名全員と会長(日野一郎氏)、副会長(小出義治氏)の留任が決定した。最後に小出義治副会長の挨拶で無事に総会を閉会した。

続いて、神奈川県立埋蔵文化財センターの網野善彦氏による「中世史研究と考古学」と題する特別講演が行われた。



特別講演

## 議事1. 1992年度事業報告

(1) 遺跡調査・研究発表会の開催

「第16回神奈川県遺跡調査・研究発表会」が1992年9月27日、神奈川県立埋蔵文化財センターの協力を得て実施された。

(2) 研究誌『考古論叢 神奈河』の刊行

第2集が1993年4月18日に刊行された。B5版の本文116頁で、700部を印刷。

(3) 連絡誌『考古かながわ』の刊行

第3号は1992年9月6日、第4号は1993年3月31日に刊行された。B5版の8頁仕立てで、700部を印刷し、会員全員に送付した。

(4) 遺跡見学会の開催

1992年12月6日に『海老名の歴史を訪ねて』(参加者46名)と、1993年2月28日に『大磯の横穴を訪ねて』(参加者50名)の見学会を実施した。

(5) 講演会の開催

1993年4月18日に川崎市市民ミュージアムにおいて、鈴木靖氏(國学院大学教授)と麻生優氏(千葉大学教授)を講師に招いて講演会が開催された。参加者150名。

(6) 役員会の開催

県立埋蔵文化財センター、県政総合センターにおいて合計6回が開催された。

## 議事2. 1992年度収支決算報告

1992年度収支決算報告書については、4頁に掲載した。また、〔会計監査報告〕については3頁に掲載した。

## 議事3. 役員の変更

1993・4年度の役員として、旧役員21名が留任し、会長に日野一郎氏、副会長に小出義治氏が選出(留任)された。

## 議事 4 . 1993年度事業計画

### (1) 遺跡調査・研究発表会の開催

「第17回神奈川県遺跡調査・研究発表会」を1993年9月19日(日曜日)に秦野市文化会館で開催を計画している。発表予定遺跡は、1992年に調査された遺跡の中から11遺跡を選定。他に特別講演(講師1名)を予定している。

### (2) 研究誌『考古論叢 神奈河』の刊行

第3集をこれまでと同様に、B5版で本文100～120頁前後で、700部を印刷の予定。掲載論文等は5本前後を予定しているが、投稿を希望される方は、題名等を1993年12月末日までに編集委員(担当・村田文夫)までお申し出ください。会員の積極的な投稿を期待しています。

### (3) 連絡誌『考古かながわ』の刊行

年2回刊行を予定している。B5版の8頁仕立てで700部印刷し、会員全員に送付する。第1回(通算5号)は、1993年8月中旬に総会報告や遺跡調査・研究発表会の内容連絡を中心としたものを予定。第2回(通算6号)は、1994年3月下旬に遺跡見学会や次回総会の報告、連絡を中心としたものを予定。

### (4) 遺跡見学会の開催

指定史跡や県下で調査中の遺跡、あるいは考古資料が実見できる施設等の見学を年2回計画している。第1回は1993年6月の日曜日に『三浦半島の海蝕洞穴を訪ねて』、第2回は1993年12月の日曜日に『横浜市内の遺跡を訪ねて』を予定している。

### (5) 講演会等の開催

一定のテーマをとりあげて、講演とスライドにより行う。1994年2月の日曜日に横浜市内において実施する予定である。

### (6) 役員会の開催

第1回を1993年5月16日(県立埋蔵文化財センター)に開催。以後随時開催する予定である。

## 会計監査報告

1992年度の収支決算について、金銭出納簿・証拠書類等を精査し、預金残高と照合した結果、誤りなく適正に処理されていることを確認しました。

1993年5月10日

監事 伊東秀吉 印

監事 土井永好 印

## 1993・4 年度役員名簿

会 長 日野 一郎

副会長 小出 義治

監 査 伊東 秀吉・土井 永好

幹 事 (各運営委員会の委員)

総務担当委員 (会の運営・企画にあたる)

\*小川 裕久・鈴木 一男・関根 孝夫

会誌担当委員 (『考古論叢 神奈河』の企画・

編集・刊行にあたる)

\*村田 文夫・河野真知郎・寺田 兼方

連絡誌担当委員 (『考古かながわ』の企画・編

集・刊行にあたる)

\*川口徳治朗・伊藤 郭・小宮 恒雄・

後藤喜八郎・塚田 順正

普及担当委員 (見学会・講演会・遺跡調査研

究発表会等の企画・編集・刊行にあ

たる)

\*白石 浩之・岡本 勇・金子 皓彦・

曾根 博明

会計担当委員 (会の経理にあたる)

\*織笠 昭・中村 若枝

\*印は各運営委員会の責任者として総務担当委員会にも属し、連絡調整・運営にあたる。

## 神奈川県考古学会1992年度収支決算書

### 〈収入〉

(単位：円)

節	予算額	決算額	説明
会費	1,233,000	1,179,000	1992年度会費／ $3,000 \times 2 = 6,000$ 1993年度会費／ $3,000 \times 387 = 1,161,000$ 1994年度会費／ $3,000 \times 4 = 12,000$
機関誌等売上	1,130,000	1,284,200	「発表会要旨」売上・会員／ $1,000 \times 197 = 197,000$ ・会員外／ $1,200 \times 24 + 1,300 \times 244 = 346,000$ 、「考古論叢 神奈河1」売上・会員／ $1,800 \times 202 = 363,600$ ・会員外／ $2,300 \times 137 = 315,100$ ・書店扱／ $2,300 \times 0.8 \times 30 = 55,200$ 、「考古かながわ」売上／ $200 \times 5 = 1,000$ 、見学会資料代／6,300
雑収入	4,282	13,851	会場整理費／ $500 \times 15 = 7,500$ 、送料収入／1,340、預金利子／5,011
寄付金	0	9,800	
繰越金	812,718	812,718	前年度繰越金
合計	3,180,000	3,299,569	

### 〈支出〉

(単位：円)

節	予算額	決算額	説明
会議費	120,000	70,516	会議資料代／7,766、会議費／9,790、会場借上／12,960、講師謝礼／40,000
会誌発行	1,472,000	1,354,513	「考古論叢 神奈河2」印刷／1,100,000、「考古かながわ3・4号」印刷／164,800、発送・連絡費／89,713
普及・啓発	180,000	103,230	講師謝礼／80,000、会議費／10,030、講演会資料代／13,200
発表会	660,000	603,708	発表要旨印刷／500,000、会場借上／16,680、講演謝礼／40,000、設営費／47,028
事務局費	315,000	257,193	賃金／153,000、通信費／86,924、消耗品費／17,269
予備費	433,000	0	
合計	3,180,000	2,389,160	

1992年度収入(¥3,299,569)－1992年度支出(¥2,389,160)＝収支差額(¥910,409)は次年度へ繰越

## 神奈川県考古学会1993年度予算

### 〈収入〉

(単位：円)

節	予 算 額	前年度予算額	説 明
会 費	1,383,000	1,233,000	$3,000 \times 461 = 1,383,000$
機 関 誌 等 売 上	1,296,000	1,130,000	「発表会要旨」売上・会員/ $1,000 \times 200 = 200,000$ ・ 会員外/ $1,300 \times 250 = 325,000$ 、「考古論叢神奈河」 売上・会員/ $1,800 \times 220 = 396,000$ ・会員外/ $2,300$ $\times 160 = 368,000$ 、「考古かながわ」売上/ $200 \times 10$ $= 2,000$ 、講演会資料代/ $5,000$
繰 越 金	910,409	812,718	
雑 収 入	5,591	4,282	会場整理費
合 計	3,595,000	3,180,000	

### 〈支出〉

(単位：円)

節	予 算 額	前年度予算額	説 明
会 議 費	176,000	120,000	会議資料代/ $20,000$ 、会議費/ $96,000$ 、会場借上/ $20,000$ 、講師謝礼/ $40,000$
会 誌 発 行	1,480,000	1,472,000	「考古論叢 神奈河3」印刷/ $1,200,000$ 、「考古かなが わ5・6号」印刷/ $180,000$ 、発送・連絡費/ $100,000$
普及・啓発	200,000	180,000	講師謝礼/ $80,000$ 、会場借上/ $20,000$ 会議費/ $20,000$ 、講演会資料代/ $80,000$
発 表 会	820,000	660,000	発表要旨印刷/ $600,000$ 、会場借上/ $60,000$ 、 講演謝礼/ $40,000$ 、設営費/ $120,000$
事務局費	478,000	315,000	賃金/ $288,000$ 、通信費/ $100,000$ 、消耗品費/ $90,000$
予 備 費	441,000	433,000	
合 計	3,595,000	3,180,000	

## 第17回神奈川県遺跡調査・研究発表会のお知らせ

1993年度の遺跡調査・研究発表会を、下記の内容・要領で開催致します。皆様おさそい合わせのうえ、多数ご参加ください。

○日 時 1993年9月19日(日) 午前9:30より

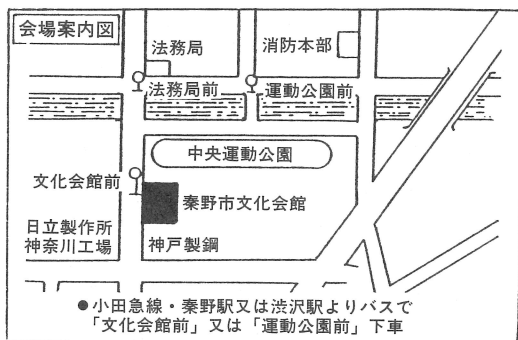
○場 所 横浜市文化会館小ホール (秦野市平沢82 ☎0463-81-1211)

### 発 表 会 次 第

- I 開会のあいさつ……………日野一郎
- II 発 表 <午前の部>
1. 秦野市太岳院遺跡……………大倉 潤  
—相模川以西で最も良好なナイフ形石器文化の資料—
2. 藤沢市南葛野遺跡……………寺田兼方  
—草創期爪形文土器と有舌尖頭器、早期条痕文期の礫器と多量の棒状礫を中心に報告—
3. 大井町東名M35遺跡……………西川修一・天野賢一・伊藤宏憲  
—縄文時代前期の集落で、竪穴住居址に地震の断層が残る—
4. 横浜市緑区観福寺北遺跡……………田村良照  
—弥生時代中期(宮ノ台期)の環壕集落と古墳時代前期方墳4基、後期円墳1基—
5. 小田原市久野一本松2号墳……………南館則夫  
—保存良好な後期古墳で、未攪乱の主体部より直刀、鉄鏃、玉などが出土—
6. 海老名市相模国分寺遺跡……………須田 誠  
—国分寺塔跡の調査—
- III 記念講演
- 「相模川以西の中世城郭」……………石丸 熙(東海大学教授)
- IV 発 表 <午後の部>
7. 横浜市綱崎山横穴墓群……………鈴木重信  
—閉塞状態を保った例を含む横穴墓群—
8. 横須賀市小荷谷遺跡……………中三川 昇  
—前面に柵列のある古代の大形掘立柱建物が検出された砂丘上の遺跡—
9. 三浦市新井城跡……………武藤康弘  
—三浦導寸ゆかりの中世城郭本丸跡より砂敷礎石建物跡、大形地下式墳などを検出—
10. 平塚市山王A遺跡……………上原正人  
—佐波理匙、国・郡名墨書土器などを出土した古代の低地集落—
11. 清川村宮ヶ瀬遺跡群表の屋敷遺跡の中・近世遺構群……………近野正幸・岩崎 修  
—中世遺構群と方1町の堀に囲まれた近世名主屋敷跡—
- V 閉会のあいさつ……………小出義治

## 〈文献交換会〉

当日、文献交換会が行われます。県内各地で最近刊行された調査報告書など、考古学関係の文献が持ち寄せられますので、合わせてご案内します。なお、文献交換を希望される団体は、ハガキに代表者名、連絡先、交換希望文献名を記入のうえ、9月12日までに考古学会事務局まで申し込んでください。



## 久しぶりのフィールド＝リフレッシュ —「海蝕洞穴」めぐり—

永塚 俊司

「ピッピッ…ピッピッピッ…」

電池の切れそうな目覚まし時計が途切れ途切りに鳴り出したのはまだ肌寒いAM5:45。頭が働かない。「今日はどこかに行くんだっけ?…そうだ、三浦半島に行く日だっけ」と千葉の安アパートで、ぼーとしながら自問自答を繰り返す私であった。

AM6:00過ぎに千葉を出発。後輩数名とともに一番お金のかからない方法で京急三崎口駅へ向かった(なんといっても学生は貧乏なのだ)。

神奈川県考古学会主催の見学会に参加するのが初めての私たちは、三崎口駅へ着いても勝手が分からずに、しばらくうろうろしていた。しかし、何やらいい歳をした(失礼)、似たような格好をしたおじさん・おばさん達が次々とあられ駅前にはたちまち彼らで一杯となってしまった。何となく場違いの所にきてしまったのかな?と不安な気持ちを抱きつつ配られたパンフレットを手にして私たちははいよいよ出発したのであった。

私がこの海蝕洞穴めぐりに参加しようと思ったのは、今年のゴールデンウィークに千葉大学によって館山市の大寺山洞穴(\*1)という海蝕洞穴の発掘調査に参加したからに他ならない。こ



毘沙門洞穴遠景

の安房の海蝕洞穴も三浦半島のものと同様に縄文海進によって開口し、その後の海退と土地の隆起によって形成されたものである。この東京湾をはさんだ両地域に存在する海蝕洞穴は非常に密接な関連があるといわれているのである。

さて一行は三浦市文化財収蔵庫で海蝕洞穴関連の遺物を見せていただいたが、やはり豊富な骨角器には驚かされた。あれだけ優美な釣針などを作るには一体どのくらいの労力がかかったのだろうか。その技術には驚くばかりである。他に三浦市に存在する縄文早期・前期の標識遺跡の遺物にも非常にそそられるものがあった。手に取って見ることが出来ればもっと良かったのにとするのは私だけではなかっただろう。

毘沙門洞穴の前の岩場でフナムシと気持ち良く?昼飯を食べた後、お尻にコールタールがこびりついている人が若干名いたのを私は見逃さなかった。(誰とはいわないが)

どの洞穴においても、当時の発掘の様子が聞

けたり、赤星直忠氏の研究姿勢などにも話が膨らみ非常に興味深いものがあった。

また、日頃、研究室に籠もり、外に出ることの少ない私にとって今回の洞穴めぐりは非常に有意義なものであった。炎天下の中の徒歩によって、汗とともに体中の不純物を流してくれたようで、最初の不安などどこかに吹き飛び、千葉に向かう電車の中では心地良い疲労感を味わいながら帰途についた。しかし帰った途端にビールを口にしたのは言うまでもない。

「プハー…うまいんだな、これが」

\*1<大寺山洞穴> 館山市沼字大和田東に所在し、三つの洞穴が西に向かって開口している。標高約30~40m、洞穴利用は縄文後期・古墳時代が

主であり、三浦半島の海蝕洞穴とは対象的に弥生時代に洞穴利用した痕跡は現在までに発見されていない。このことは安房の海蝕洞穴に一般的にみられる現象ということができるようである。【参考文献 白井久美子(1992)「海の首長」『房総考古学ライブラリー6古墳時代(2)』/千葉大学考古学研究室(1993)『大寺山洞穴測量調査概報』】

[附記] 参加人員は58名でした。梅雨の中休み、日差しが強い三浦のシーサイドコース、洞穴めぐりは勿論ですが、初夏の相模湾の雄大な波を見ながらリフレッシュしました。剣持さん、飯島さんの良きエスコート、ありがとうございました。《事務局》

#### <施設案内> 赤星直忠博士文化財資料館

資料館は、赤星直忠博士が永年に亘る考古学研究の結果、採集された文化財遺物並びに諸文献を散逸させることなく保存管理し、歴史研究の資料として提供するために設立しました。個人が所蔵する遺物・文献についても、其の意志により保存を希望するときには、それ等を保管し閲覧に供する予定です。

展示資料としては、三浦半島を中心とした県内各地の考古資料のほか、博士の研究ノート・スケッチ・日記などがあります。

現在、資料目録・パンフレットを作成中であり、資料報告・未発表論文等も順次出版する予

定です。

交通案内 (JR・京急「逗子」駅から京急バス長井方面行きで「佐鳥入口」下車徒歩2分。

「問い合わせ先」 横須賀市長坂2-8-12 宇内建設ビル3階 TEL.0468-57-7626

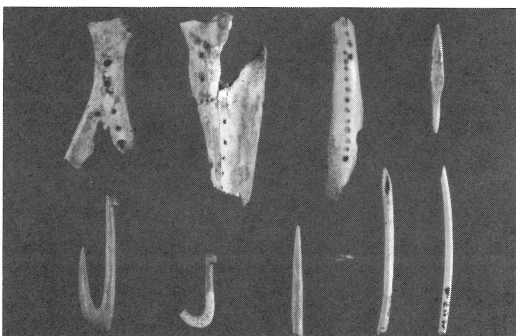
#### <催し物>

「石に刻まれた中世—収蔵板碑を中心に—」

期間：1993年9月7日(火)~1994年8月31日(木)

●シンポジウム「石に刻まれた中世—武蔵型板碑とその周辺—」9月11日(土)、9月12日(日)

会場：川崎市市民ミュージアム



#### 考古かながわ 第5号

発行 神奈川県考古学会  
発行日 1993年8月17日  
編集者 伊藤 郭、川口徳治朗、小宮恒雄、後藤喜八郎、塚田順正  
事務局 東海大学文学部考古学研究室内  
〒259-12 平塚市北金目1117  
郵便振替 横浜4-71208  
神奈川県考古学会  
印刷所 東邦印刷株式会社